深沢七郎

人間滅亡的人生案内

河出書房新社

人間滅亡的人生案内

昭和四十六年七月二十五日初版印刷
昭和四十六月七月三十日初版発行
定価　五〇〇円

著者　深沢七郎
発行者　中島隆之
発行所　河出書房新社
東京都千代田区神田小川町三ノ六
振替東京一〇八〇二番
印刷所　中央精版
製本所　中央精版
©1971
＊落丁・乱丁本はお取替えいたします

0095-037131-0961

人間滅亡的人生案内……5
小さな質問者たち……185

装幀　安岡明夫

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

人間滅亡的人生案内

人間滅亡的人生案内

前略、深沢七郎さま、ただの一度の面識もないわたくしが、かようなつまらない相談をするのをどうかお許しください。わたくしは当年二十五歳になる一サラリーマンでございます。一昨年、東京の某四流大学を卒業しまして、名もない小会社に入社して現在に至っている次第です。

わたくしは生まれてこの方、(いつからかはハッキリしませんので)何事にも期待せずむろんのこと自分の才能などにも期待しないで、ただただ毎日毎日、その時その時がたとえ楽しくなくとも苦しい思いさえしなければそれで良い、と思って生き続けてきました。だから、お酒はアル中に近いぐらいの酔っ払いですし、博奕は麻雀競馬競輪花札パチンコ何でも好きです。女は素人玄人を問わず、お金さえあれば玄人の女を、お金が失くなれば素人の女を……といった次第です。

もちろん、会社の仕事なども気が向かなければ、すぐにサボッて競馬へ行ったり、酒を飲んだり……といった有様です。こんなわけで、会社に入って一年半の間に三回程「始末書」を書かされています。もちろん、改悛の気持などサラサラなく、ただ単に形式的なものです。もちろん受け取る側も、そう思っていることでしょう。とりとめのないことを長々と書いてしまいましたが、現在のわたくしの悩みというのは次のようなことです。

第一にお酒の飲み過ぎの為胃カイヨウになってしまい時々喀血なども して、何より悲しいのはそのお酒が生理的にあまり飲めなくなってしまったこと。第二にやはりお酒の飲み過ぎのせいか性的能力が著しく減退してしまい、性行為が行なえないこと。(恐らく栄養失調からくるものと思われます。) このようにわたくしの好きな二つの大切なものが、わたくしの前から去りつつあるのがチョッピリ寂しくもあり、悲しい気持もするのです。ご感想をお聞かせ下さい。

石野茂之

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

石野茂之様

第1の質問の酒を飲み過ぎて胃カイヨウになって喀血するときなどもあるそうですが、そんなことを心配する必要はないと思います。もともと酒を好きで飲んだのですからそのための弊害、病気などを気にすることは貴君らしくないと思います。好きなことをして、そのために悩むなんてことはない筈です。そして、そのために好きな酒が生理的に飲めなくなったからとしてもそれが何より悲しいなどと弱音を吐くなんて、実に、主客転倒した考えではないでしょうか。胃カイヨウでもいいから酒を飲みつづけたほうがいいと私は思います。マズかったら飲まなければよいではないですか。マズイものを飲めないから悲しいということもない筈です。きっと、胃カイヨウなどという病気のために貴君はノイローゼになっているのだと思います。胃が悪いなどということを考えないで酒を飲むことです。おそらく酒が美味く飲めることと確信します。こう言う私なども下り腹痛のときなどは食事を特に多量に食べることにしています。そうして、それをつづけると直ってしまいます。勿論、食事がマズかったら食べません。そんなときはなるべく美味(うま)い食事を作って沢山食べるようにしています。

第2の性的能力が著しく減退してチョッピリ寂しく、悲しいそうですが、これも神経のためと思います。お酒の飲みすぎのせいかなどと弱音を吐くことが変なのです。それでも性行為が出来なければそれは結構なことではないでしょうか。人間は性行為のためにあらゆる方面にエネルギーを使う、つまり努力をしなければならないのですからその点だけでも生活が安楽になる筈です。ただ、貴君は性行為を求めるけれども出来ないのだったらガッカリです。そういう場合はあらゆる方法と研究で性欲を満足させることを考えるべきです。それにはいろいろの本が出ているのですから大いに研究して下さい。だが、現在の貴君のインポテンツは神経的なものだと思います。貴君はいまは酒、性、そのほかのことは考えないことです。

拝啓

実は、私、大学の文学部を出て、ある小さな出版社の編集者として一年半働いて、現在月給二万五千円をもらっている身でございます。悩みと申しますのは、他でもないのですが、入る前は、自分にむいていると思った編集の仕事が、どうにもつまらなくてならないのです。といって、他の何かに興味があるというのでもなく、恋愛の真似ごとみたいなことをしても、さっぱり夢中になれません。

そこでよく考えてみると、私はどんなことをしても熱中できないタイプのように思えるのです。たとえば友人にさそわれてダンス・パーティに行っても、踊ることがそんなに楽しいとも感じないし、かといって誘いを断るのもつまらないし、結局、その場に居合わせても、他人が楽しんでいるのを観察しているような結果になってしまうのです。

このような私ですので、集まりなどがあっても、友人たちはだんだん私を誘わなくなり、したがって孤立してしまうようなのです。どうも私は、この世の中で余計者のように思われてきて、生きていても仕方のない人間なのだといいきかせたりしています。かといって、自殺する勇気

もなく、そんなあわれな姿を他人に見られるのもいやだし、どうしたらよいのか、まったくノイローゼのような状態になっているようなわけです。

こんな私にとって、生きるに価するような何かが発見できますでしょうか。それとも、私と同じような倦怠感を抱いて生きている人が他にもいるものでしょうか、お教えください。何をしても駄目な人間は生きていく方法がないものでしょうか。かといって深沢さんのように畠仕事がしたいと思いません。父はいないのですが、母や兄たちは、頭をかかえている私を見て「家の中が暗くていけない」などという始末です。家出して一人で食べるだけの能力もないし、編集者も性に合わないようで、何年もやる気はないし、寝ていては生活できもしないし、結婚して男のドレイになるのは、さらに憂うつなことだし……どうしたらよいのでしょうか。

勝手なことを書きました。

馬鹿な女と笑わないでください。満二十四歳。私立大学では英文科を出ました。やや肥り気味ですが、外見からは、若さと美貌は人並みに持

ち合わせている処女です。

＊どうか誌上は匿名でお願いします。

Y・O子

Y・O子様のこと。

まことにゼイタクな心配ごとではありませんか。太古時代は人間は少なかったので人間たちは集まりあったのです。現代は人間が多すぎるので離れたいと思っているのです。あなたは孤独になるのを不安に思っているらしいが私は羨ましいと思います。とても、とても恵まれている筈なのにもったいないことです。また、何事にも熱中できないタイプと言うのも羨ましいことです。ゴルフに熱中したり、ダンスに熱中したり、恋や酒に熱中すること、熱中することは麻酔薬の中毒と同じなのです。馬鹿らしいことなのです。熱中できないことはステキなことなのです。とんでもない心配です。生きるに価する何かを発見するなどとはとんでもない思い違いだと思います。ヒットラー、徳川家康、と大きなことをしようとした人たちは結局、なんのために努力したかわからないと思いませんか。生きていることは川の水の流れることと同じ状態なの

です。なんにも考えないで、なんにもしないでいることこそ人間の生きかただと私は思います。ただ、生きていくには食べなければならないのです。だからお勤め仕事もするのではありませんか。仕事をすることは食べること以外に意味を求めてはいけないのです。編集の仕事が性に合わないと思っているようですが、どんな仕事でも仕事はツマラないのです。食べる報酬をもらうのですからね。ほんとにツマラナイことを心配したものですね。あなたは、案外、幸福に慢性になってしまったのではないですか。幸福に気がつかない、ゼイタクな心配なのです。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com